

(別紙様式3)

令和2年3月27日

研究開発実施状況報告書

住所 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号

管理機関名 宮崎県教育委員会

代表者名 教育長 日隈 俊郎

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月30日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名・類型 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）

学校名 宮崎県立飯野高等学校

学校長名 押方 修

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

4 研究開発概要

本校では、学科・コースごとにすべての生徒が地域をフィールドに探究活動を行っている。このことから、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。また、本校の位置する宮崎県えびの市は、国内の過疎地域と同様に多くの社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、市内唯一の県立高校である環境を活かし、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローの育成するための3年間を見通した体系的・系統的な実践型地域課題解決学習のカリキュラムを開発・実践やその体制構築を行う。開発・実践に当たっては地域の団体、事業所、大学などと連携して、地域における課題、貢献意識を持つ人材育成により、地域創生の核となる高校を目指す。

5 教育課程の特例の活用の有無
無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育・保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校 PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市 PTA 連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立飯野小学校

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月24日 飯野高校魅力化の会	コンソーシアムを組織 ・本校の取組及び事業説明
令和元年6月18日（第1回） 魅力化コアチーム委員会	第1回会合 ・本校の取組及び事業説明 ・これまでの本校の地域での探究について協議し、 本会からの提言をもとに方針を決定
令和元年7月29日（第2回） 魅力化コアチーム委員会	第2回会合 ・どんな学校が魅力なのか ・何があると魅力的なのかについて協議
令和元年9月18日（第3回） 魅力化コアチーム委員会	第3回会合 ・本校の魅力は？（地域にとって、中学生、保護者にとって …） ・魅力づくりへのアクション
令和元年11月24日（第4回） 魅力化コアチーム委員会	第4回会合 ・地域における探究活動のさらなる深化 ・高校魅力づくりへのアウトカム ・地域の核となる高校へ。地域（えびの市）がどう あるべきか
令和2年1月23日（第5回） 魅力化コアチーム委員会	第5回会合 ・社会と教科のつながりをつくるには ・学校を超えた学びづくり
令和2年3月13日 飯野高校魅力化の会	臨時休校措置により中止

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

大正大学専任教員 山中昌幸氏（都度依頼し謝礼支払い）2回来校、3回オンライン

②活動日程・活動内容

以下の日程で、本校のカリキュラムについて内容の協議や地元企業との協議等を行った。山中氏の実践や他県での事例を参考にしたり、全体に係る構想や授業の具体的な設計について5回にわたって協議する時間を設けた。

活動日程	活動内容
令和元年6月18日	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度事業における活動計画について協議・連携企業との打合せ会議に同行・会議後にカリキュラム内容に関する協議
令和元年7月29日	<ul style="list-style-type: none">・地域との連携した取組について・教科との接続について・評価について
令和元年9月18日	<ul style="list-style-type: none">・探究活動におけるガイドライン作成について
令和元年11月24日	<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム内容に関する協議・大学との連携事業について
令和2年1月23日	<ul style="list-style-type: none">・社会と教科のつながりをつくるには・学校を超えた学びづくり

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

VoiceGift Lilybell 代表 遠目塚文美氏（魅力化コアチーム委員として探究活動の伴走）

②実施日程・実施内容

生徒が、探究活動を行う際の助言や地域との接続、連絡調整などを生徒たちの活動の状況に応じて行った。また、魅力化コアチームの一委員として以下の協議に参加した。

日程	内容
令和元年6月18日（第1回） 魅力化コアチーム委員会	第1回会合 <ul style="list-style-type: none">・本校の取組及び事業説明・これまでの本校の地域での探究について協議し、 本会からの提言をもとに方針を決定
令和元年7月29日（第2回） 魅力化コアチーム委員会	第2回会合 <ul style="list-style-type: none">・どんな学校が魅力なのか・何があると魅力的なのかについて協議
令和元年9月18日（第3回） 魅力化コアチーム委員会	第3回会合 <ul style="list-style-type: none">・本校の魅力は？（地域にとって、中学生、保護者にとって…）

	・魅力づくりへのアクション
令和元年9月21日	地域探究活動伴走 子育て支援プロジェクトNOGIKU
令和元年11月24日（第4回） 魅力化コアチーム委員会	第4回会合 ・地域における探究活動のさらなる深化 ・高校魅力づくりへのアウトカム ・地域の核となる高校へ。地域（えびの市）がどうあるべきか
令和2年1月23日（第5回） 魅力化コアチーム委員会	第5回会合 ・社会と教科のつながりをつくるには ・学校を超えた学びづくり

（4）運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役社長
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年9月18日（第1回）	第1回会合 ・本年度の取組計画 ・事業内容の説明 ・これまでの取組に関する指導・助言
令和2年2月12日（第2回）	第2回会合 ・本年度の取組成果について ・これまでの取組に関する指導・助言

運営指導委員会からの指導・助言内容

- ・持続可能な学びをするために県教育委員会のサポートをお願いしたい。
- ・グローバル学習成果発表会、全国グローバル summit など、これまでになかった生徒たちの成長など明らかな変化が起きている。特に発表の中で、失敗談が語られたのは良かった。
- ・知識・技能を徹底的に入れ込んでいくことも大事にしながらいち歩を進めていくことが大事である。
- ・日ごろの教科指導 今まで以上のものを与えていく。
- ・ある程度、枠は与えながら枠を破る生徒を育てる。
- ・生徒募集（地域から中学生）と進路実現にどうつなげるか。

- ・周囲の環境に気づいているか（地域みらい留学の生徒の活躍が鍵）
- ・県全体に波及できるようなシステムをつくる。
- ・飯野高校を守り育てる会にむしろ乗ったほうがいいのではないか。
- ・地元で飯野高校に対して、どう目を向けさせるか。
- ・英語を实践できる高校は、魅力的なのでは？
- ・魅力化コアチームと生徒の対談をしてみてもどうか。

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

コンソーシアムによる取組も含め記入すること（その場合は、コンソーシアムによるものである旨明記すること）。

（主体的な取組の例）

- ・国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
- ・継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮 等

②事業終了後の自走を見据えた取組について

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学の 充実・実践	週 1～2 時間 →											
魅力化コアチーム 委員会の開催			1回	1回		1回		1回		1回		
グローバル学習成果 発表会 2019						企画		準備		開催		
全国グローバルリー ダーズ summit						企画		準備		開催		
視察研修				まちづ くり甲 子園	SR サミット	SCH シンポジ ウム	全 国 協 議 会					

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本年度より各学年、学科コースの特性に応じた探究活動を始めた。チャレンジ 1 年目ですべてのカリキュラムにおいて実践を伴う実践型課題解決学習の試行、開発に取り組むことができたことは大きい。以下はその内容である。

- ・「えびの学」（探究の基礎）1 年生全学科共通 週 1 時間
総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1 年生 82 名が対象であった。内容と

としては、2年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を学ぶとともに、本校で行う「えびの青年会議所フォーラム」で地域の大人とのクロストークなど地域課題を考える上で必要な視点を獲得する時間とした。その上で地域実習による実践を通して、実際の現場から自ら問を見つけ、情報を整理分析する力を身につける。その後、実習成果発表会を行うが、準備や発表を通して論理的に考え表現することやプレゼン作成力を身につける。年間を通して、地域の未来・自分の将来を考える。

月	実施項目	場所	連携先	教科連携
4	地域について知る（地域のフィールドワーク）	えびの市内各所	えびの青年会議所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
7	地域課題を考える① ・問を見つける ・情報を収集する	本校		
	えびの青年会議所フォーラム			
7	地域課題を考える② ・情報の整理分析 ・論理的に考え、表現する→探究マップの作成	本校		
	9		地域実習に向けて ・問を見つける ・情報を収集する	
10	地域実習 ・実際の現場から問を見つけ情報を整理分析する	各事業所	えびの市内各事業所	
11	実習成果発表会 ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成	本校		
12 1 2	地域の未来・自分のミライを考える ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析	本校	えびの市役所	
3	えびの学成果報告会 ・論理的に考え、表現する→ループリック評価	本校		

・「地域貢献活動」2・3年生 普通科総合コース 週2時間

学校設定科目で、普通科総合コース2・3年生52名が対象であった。内容としては、2年4～6月まで「えびの市を考える」をテーマに様々な分野から地域について学び、7月に実習前準備を行う。さらにこの活動のメインである「地域実習」（2年9月～3年7月）では、約1年間活動の中で地域で感じる課題テーマを設定して、その解決に向けた実践を行った（グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返す）。

その後、3年9月～12月で活動全体の個人レポートの作成、発表会に向けたプレゼン資料やポスター作成を行うとともにグローバル学習成果発表会の実行委員会を組織して企画・運営をすべて行うものとした。このことにより、実践を伴う様々な経験から地域の未来・自分の将来を考える時間とした。

年	月	実施項目	実施場所	連携先	教科連携
2	4	えびの市を考える①～⑥ ・市役所出前講座による対話型研修	本校	えびの市役所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
	6				
	7	地域実習に向けて→テーマ設定			

	9 3	地域実習①～⑱ グループ協議（目標設定）→実習 →振り返り（課題→解決策）	各事業所	えびの市内 各事業所	
3	4 7	地域実習⑳～㉓ グループ協議（目標設定）→実習 →振り返り（課題→解決策）	各事業所	えびの市内 各事業所	
	9 12	地域実習成果レポート作成 発表プレゼン作成 グローバル学習成果発表会企画会議	本校		
	1	グローバル学習成果発表会	えびの市文 化センター	えびの市	
	【連携事業所（実習施設）】 えびの市役所、えびの市立飯野小学校、社会福祉法人慶和会、医療法人武雄会、株式会社エコープみやざき、えびの市民図書館、JAえびの市、道の駅えびの、えびの市立上江小中学校				

・地域探究活動 2・3年生 普通科探究コース 週1時間

学校設定科目で、普通科探究コース2・3年生68名が対象であった。身の回りや地域課題から問を見つけ、テーマ設定を行いプロジェクト化するものである。テーマ設定や活動に関する基本的な方法についてワークを実施し、地域でプロジェクトを実践することで課題解決をはかる。その際、多様な人々、機関、団体との協働や連携をすることで自ら視野を広げ行動を起こしていく力を身につける内容とした。また、校内で実施されるグローバル学習成果発表会をはじめ、高校生の全国サミットをはじめ県内外の高校生との対話をする機会や実など域内にとどまらない様々な経験から地域の未来・自分の将来を考える時間とした。

年	月	実施項目	実施場所	連携先	連携教科	
2	4 6	地域課題から問を見つけテーマ設定する ・自分グラフ作成・フィールドワーク ・テーマ設定・情報収集及び整理・分析 ・3年生によるポスターセッション ・実践に向けて課題解決策を考える	本校 えびの市内 各所	えびの市内 各所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う	
	7	実践する①				
	9 10	実践①から実践②へ ・えびの未来カフェ ・実践①の評価と新たな問を見つける				
	11	実践② ・実践②の評価と新たな問を見つける				
	3					
3	4 6 7	課題解決に向けた実践③～④ ・ポスターセッション	本校	えびの市		
	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成				
	1	グローバル学習成果発表会				えびの市文化センター

【連携・協力先※実績】えびの市観光協会、えびの市社会福祉協議会、西諸医師会、えびの市公立病院、あかり助産院、京町・吉田温泉みなほ会、えびの市鹿協会、えびの市観光商工課、えびの市市民協働課、えびの市起業支援センター、えびの市商工会、えびの市地域おこし協力隊、ドッグラン&カフェ 咲桃虎、京町観光ホテル、九州電力、国土交通省川内川河川事務所京町出張所、環境省えびの自然保護官事務所、株式会社 電通九州、北きりしま田舎物語推進協議会

「地域支援活動」 3年生 生活文化科 週4時間（※1～2年生→家庭科専門科目内実施）
 ・2年生までは、専門科目の中ですべての生徒が家庭科の専門力を活かしたすべてのプロジェクトに携わり、多様な人と関わりながら実践から学びをえる。この学びを3年生で「地域支援活動」と位置付ける課題研究の中で活かして、自らプロジェクトをたちあげ実践を行う。内容としては、5～10月に週2時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動としている。

年	月	実施項目	実施場所	連携先	連携教科
2		※2年次までは、専門科目の中ですべての生徒がすべてのプロジェクトに関わる。 科目名 ○フードデザイン →SAPと連携した地域特産物開発 ○ファッション造形基礎 →子育て応援プロジェクト（小物作り） ○発達と保育 →子育て応援プロジェクト（運動会企画） ○生活美学 →高齢者支援プロジェクト	本校 えびの市内各所	えびの市内各所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
3	4	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習 →振り返り（課題→解決策） ※上記を繰り返し、各事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践を行う。	各事業所	えびの市内各事業所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
	7				
	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成	本校		
	1	グローバル学習成果発表会	えびの市文化センター	えびの市	

【連携・協力先※実績】

えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、JAえびの市青年部、JAえびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏）、裏千家、えびの市SAP会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）
 各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	1年生	2・3年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目 名	えびの学 週1単位	地域貢献活動 週2単位	地域探究活動 週1単位	地域支援活動 週4単位

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で試行

④類型毎の趣旨に応じた取組について

研究開発をすすめている「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」では、生徒たちが以下のようなテーマを設定して実践を通じた活動を行った。

地域貢献活動 活動テーマ

- ・地域の人を使いやすい店舗（A コープ） ・健康に育つ保育の環境づくり（飯野保育園）
- ・利用者のストレス軽減（グループホームあおい）
- ・地域の人が親しみやすい図書館（えびの市民図書館）
- ・えびのの特産品を広めるために（道の駅えびの）
- ・レクレーションで利用者を笑顔に！（ほうよう）
- ・未来を担う児童が育つ環境づくり（上江小学校）
- ・子どもたちを導く環境づくり（第二和光幼稚園）
- ・「あそび」から学ぶ環境づくり（飯野小学校）

地域探究活動 探究テーマ

- ・道の駅を起点とした地域活性化策について ・焼酎造りを科学的観点からみる
- ・地域医療の現状について ・温泉で地域を元気に～京町温泉郷の活性化から人口増加～
- ・国際協力について考える ・市の観光資源を再考する（市内ツアー企画）
- ・環境保全からえびの市の未来を考える ・よかところプロジェクト I
- ・地域からつなぐ国際協力 ・子育て支援プロジェクト・吉都線活性化プロジェクトなど

地域支援活動 活動テーマ

- ・正一：ご当地グルメコンテスト試作づくり マスコット作成 SAPラベルづくり
- ・SAP：スイートコーン、トマト、ピーマンづくり 各農場での活動
- ・Aコープ：POP作成、ご当地グルメコンテスト試作づくり
- ・RIZHAIR：ヘアゴム・アクセサリーの作成→お客さんへのプレゼント
- ・グループホームあおい：コースター作成 月ごとのカレンダーに塗り絵付け
- ・ほうよう：ティッシュケース作成、デイサービス利用者向け「お楽しみ会」企画

- ・飯野保育園：壁飾り作成、水遊び道具の開発、ボタン付け練習用キット作成 など

グローバル学習成果発表会

3年間の活動成果を発表するもので、えびの市文化センターで開催している。本年度は、地元の中学生をはじめ、県内外から300名を超える方々が参加し、会場は満席となった。その会場で地域貢献活動、地域探究活動、地域支援活動に加え、海外への研修に参加した生徒など約80名の生徒がステージにたち発表、表現できたことは生徒たちにとって学び多きものになったと思う。また、この発表会は企画・運営を普通総合コース3年の生徒たちが行っていることも挙育効果は大きいと考えている。

全国グローバルリーダーズ summit

探究する全国の高校生、大学生、社会人が一堂に会し、各地域への意志ある人材の育成にもつなぐ場を飯野高生が主体となって実現した本後発の全国サミットである。参加者がそれぞれの地で取り組みを紹介したり、対話によって創造的な場をつくり、新たな化学反応を起こすことで様々な視点で社会課題に挑むグローバルリーダーを生み出していこうというものであった。当日は全国から120名の参加があり、初回から有為なものとなった。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・グローバル学習成果発表会の開催（県内外18校、市内中学校、地域住民 計520名参加）
- ・全国グローバルリーダーズ summit の実施（県内外から18校120名参加）
- ・宮崎県キャリア教育フォーラム 事例発表
- ・MSEC（宮崎県SDGs教育コンソーシアム）参画
- ・立命館宇治高校 WWL コンソーシアム事業研究校報告会 事例発表
- ・宮崎県立宮崎南高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・長崎県立松浦高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・大分県立宇佐高校 総合的探究の時間（事例紹介・ワークショップ）
- ・大分県高大連携シンポジウム 事例発表
- ・SCHシンポジウム 事例発表
- ・全国高校生マイプロジェクトアワード九州サミット 事例発表
- ・えびの未来カフェの開催（本校生＋地域住民90名参加）
- ・えびの市民交流喫茶 事例紹介
- ・みやぎん経済研究所「調査月報12月号」寄稿（高等学校を核とした地域創生）
- ・視察受入（鹿児島県立鬼界高校、福岡県立須恵高校、熊本県立上天草高校、鹿児島県立串木野高校、長崎県立松浦高校、島根県立益田商業高校、静岡県立三島南高校、栃木県立馬頭高校、鹿児島県立指宿高校、和歌山県議会、福岡県議会）

(3) 研究開発の実施体制について

- ①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・魅力化コアチーム

魅力化地域推進委員会と教師で構成される魅力化校内推進委員会の構成員による魅力化コアチームをつくり本事業の要となる組織とする。

- ・魅力化校内推進委員会

地域協働推進校としての研究開発を学校全体の取り組みとして推進する組織である。校務分掌の主任、学科・コース各担当教員により構成し、カリキュラム開発や授業づくりの研究、事業に関して等を校内の教師への浸透させる。また、事例発表やWEBの活用、学校説明会等々、外部発信も担当する。委員には、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含める。

- ・魅力化地域推進委員会

飯野高校を守り育てる会（コンソーシアム）内に本校との連携に関する実務委員会として事業に関するコンソーシアム内の調整、地域との連携活動を集約し、本校との連携が円滑に進むよう調整等を行っている。委員には、地元事業者に加え教員1名、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含めている。

- ・学科・コース会議

学科・コースごとにすべての教師が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議である。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。

また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に地域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織としている。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

8 目標の進捗状況、成果、評価

事業指定を受けて、全学科・コースで取り組みを始めたことにより生徒たちの活動が非常に活発になった。これは、実践を通じた生きた学び（探究的な学び※下図は本校の探究のサ

イクル) から得られるものではないかと手ごたえを感じている。類型に応じた7(2)④類型に応じた取組みにも記載している通り3学年では30以上の地域におけるプロジェクトが展開された。これは、コンソーシアムが実務的にも動き始めたことで地域と高校の結びつきがこれまで以上に強まったことが大きい。その成果を報告するグローバル学習成果発表会では、県内外から520名の参加があり会場は満席となった。また地域と協働した探究活動の展開により、本年度の県内への就職状況は77%(目標値80%)と設定目標に非常に近い数値となり過去10年で最高であった。次年度以降は、これらが確固たるものとなり、他の目標も達成できるように取り組んでいきたい。



9 次年度以降の課題及び改善点

初年度を終え、生徒たちの本事業による取り組みが高校を核とした地域の魅力化につながると感じている。これは、実践型地域課題解決学習により地域とのつながりが格段に増えて生徒や職員を通して「社会に開かれた高校」になってきていることが大きいといえる。

一方で教科との接続をしっかりと行い学習活動がより発展的なものとなるよう次年度以降取り組んでいきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	0985-26-7033
氏名	桑畑 真理	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	kuwahata-mari@pref.miyazaki.lg.jp